



# 創造

## 最後の授業参観&最初の学級懇談会

一年間の学習の成果を披露する機会となった授業参観。その内容には、児童のよさを最大限に引き出したいという各担任の思いが込められていました。どの学年にも共通していたのが『表現する場を確保すること』でした。「今、思うこと」というテーマを受け、「差別やいじめのない社会」について発表した六年の田中泉妃さんは、「一人一人が助け合って生きていけるよう、常に社会に関心をもって行動していきたいです」と締めくくりました。他の学年の児童も緊張感がただよう中、臆することなくICT機器やフリップ等を使いながら、学んだことをしっかりと伝えていました。その後の学級懇談会では、「親の学びプログラム」の実施により親睦を深め、学校と家庭での一年間の共育の成果を確認し合いました。各担任も保護者の皆様とようやく対面して交流ができ、充実した時間になったようです。授業参観の出席率九十一%、懇談会の出席率五十%でした。分散型の参観形態や駐車場不足へのご協力、ありがとうございました。



佐敷小の皆さん、学校生活を楽しんでますか。今、佐敷小はすごくがんばっていますね。七月豪雨はつらかったでしょう。少しでも役に立ちたくて久木野小でバザーをしました。久木野の気持ちを受け取ってください。みんな応援しています。



五日、水俣市立久木野小学校の児童と先生方が来校されました。七月豪雨で被災した本校を支援しようと児童の発案でチャリティバザーを企画。家庭で使っていない文房具や日用品などを土曜授業で招いた保護者や関係者に販売し、その収益金と激励の寄せ書きを届けてくださいました。全校児童十九名という少数精鋭の真心のこもった贈物に胸が熱くなりました。感染症対策として、改修工事が終わったばかりの体育館で行った贈呈式。その様子は、オンラインで各教室の児童にも伝えました。養田校長先生からも、やさしい眼差しで本校の児童に温かい言葉をかけていただきました。卒業・進級を間近に控え、本校の児童も復興への新たな思いを胸に刻むことができました。(備考・久木野小は私の母校です)

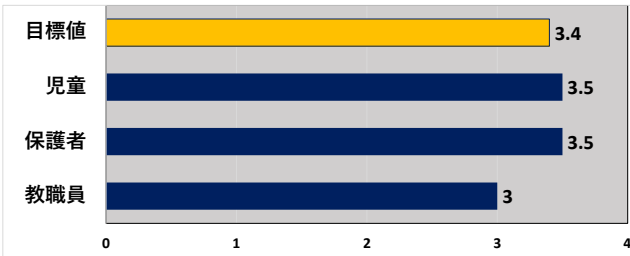
## 今年度のまとめと次年度の志向

本校では、これまで紹介してきた職員一人一人の持ち味を生かし、互いの得意分野(凸)と苦手分野(凹)をうまく組み合わせながら、ジグソーパズルのような協働型組織をつくり教育活動に当たってきました。今号では、児童の育ちの様子を三者で評価したアンケート等(4段階評価)の結果をもとに、育成を目指した資質・能力と家庭との連携共育の観点から1年間を振り返ります。(裏面へ)



## 1 相手の気持ちに思いを巡らすことができる**共感力**の育成

【問1】 人の気持ちを考え、いじめをせず、友達を大切にしていますか。

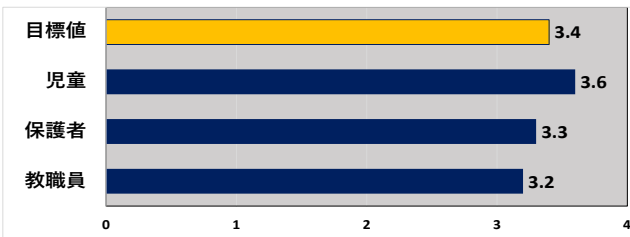


- 豪雨災害により、校舎や自宅が被災した状況の中、相手の気持ちを考えた温かい言動が随所に見られた。
- 小事を見逃さず聞き取りを行い、家庭と連携して早期解決に努めたことにより重大化する事案はなかった。
- 自信が持てず他者と比較して考えたり、判断したりする傾向にある。

今年度から始めたキャリアアップシートを活用し、自分を振り返る機会を設け、児童自身が学校や学級に役立っているという実感の持てる取組を継続していきます。また、遊びを通して、集団の秩序を守ることや相手と折り合いをつける生活の知恵を身につけさせるようにします。

## 2 わかる・できるまで学習等に取り組む**探究力**の育成

【問2】 学習をして、わかるようになったことやできるようになったことが増えていますか。

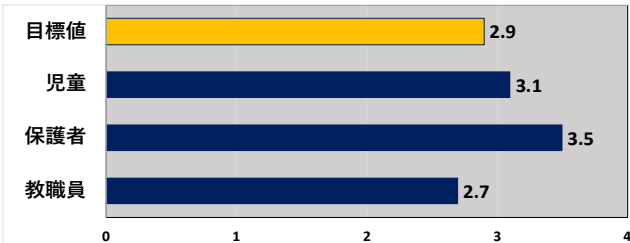


- 授業中できるまで挑戦しようとする児童が前年度より増えている。
- 県学力調査の結果から、ここ2年間上昇傾向にある。特に、課題だった算数科の伸びが顕著に見られた。
- 家庭学習の時間が県平均と比較して短い。学習内容の定着のためには復習する習慣が必要となる。家庭での時間の使い方が課題である。

私たちの最大の使命である授業力の向上のために、研修をとおして指導技術を磨き続けます。個別対応としては、補充指導の時間を引き続き確保し課題解決に努めます。同時に、児童に「学ぶ意味」を問いかけながら「能動的に学び続ける力」の育成に向け「わかる喜び」を体感させます。

## 3 学校や地域の一人として、他者と連携しながら行動することができる**協働力**の育成

【問3】 みんなのために良いと思ったことを進んでやっていますか。

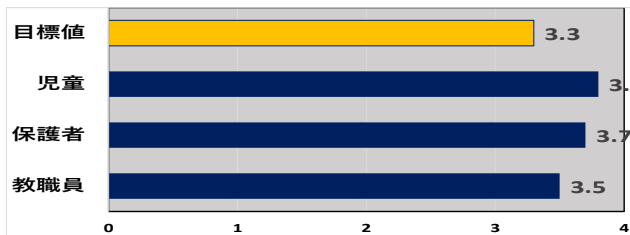


- 高学年の児童を中心に、登校後の自発的な清掃活動や地域でのあいさつなど、考えて行動できるようになってきた。
- 学校の共有スペースであるトイレのスリッパ並べは大きく改善し、佐敷小の宝になりつつある。
- 低学年の児童を中心に、他者を意識した廊下歩行が不十分である。

教育課程の弾力的かつ効果的運用を図り、「みんなで創る佐敷小学校」の実現に向け、現在の取組を校内から地域へと広げていきます。特に、委員会活動や学級活動の内容を充実させ、結果より努力を認め、ほめ、励ましていきます。「ありがとう」の声が響く学校を目指します。

## 4 学校と家庭との**連携共育**の推進

【問4】 朝ごはんをしっかりと食べて登校していますか。



- 三者とも評価値が高かった。PTAと連携した各種実践によって大きな成果を上げた。
- 味噌汁づくりをとおして、家庭でのコミュニケーションも深まった。
- 起床時刻が遅いため、朝食を取らずに登校している児童がいる。就寝時刻と合わせて家庭での生活リズムの改善が求められる。

本校の大きな課題であるメディアの利活用の在り方と睡眠時間の確保について、PTAや関係機関と連携した取組を推進します。その成果を食育研究推進校としての実践と合わせて児童の姿で県下に公開することとしています。